

## 平成28年度 第2回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 平成28年10月21日（月）15時から17時まで
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎 3階 302会議室
- 3 出席者 **【委員】**（50音順・敬称略）  
池谷孝、片岡佳美、笹村直也、笹本とよ子、志田浩政、村越真、  
村田真一、百瀬容美子、山野良成  
**【事務局】**  
秋山健スポーツ振興課長、鈴木章文課長補佐兼スポーツ振興係長、  
長澤秀紀主幹兼スポーツツーリズム推進係長、  
福井秀明葵・駿河施設係長、松浦吉洋主幹兼清水施設係長、  
望月哲也ホームタウン推進担当課長兼係長、  
本間万起子主査、室井彩主任主事
- 4 欠席者 青木秀剛、北川知美、熊谷正泰、鳴海恵理子、松崎晃、山本尚佳
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 （1）社会教育関係団体であるスポーツ団体への補助金について  
（2）「支える」スポーツ～部活動とその指導者～について
- 7 会議概要 下記のとおり

### 【概要】

#### 1 開会

- （1）会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）

#### 2 議題

- （1）社会教育関係団体であるスポーツ団体への補助金について

#### 【事務局説明】

##### ①静岡市体育協会事業補助金

- ・公益財団法人静岡市体育協会の組織概要、事業

- ・補助金の目的：

静岡市におけるスポーツの普及・振興を図り、スポーツ精神を培い、市民の健康・体力づくりの推進に関する事業を行い、もって健康で豊かな市民生活の育成に寄与する

- ・補助対象事業：

体育団体の育成強化に関する事、体育指導者の資質向上、活動支援に関する事、競技力向上に関する事、市民の健康及び体力づくりに関する事、各種競技大会及びスポーツ教室の開催に関する事、スポーツに関する調査研究及び広報活動に関する事、体育功労者、優秀指導者、優秀選手及び優秀団体の表彰に関する事、その他市長が適当と認める事、など

- ・平成28年度事業計画：
  - ア スポーツの普及・振興に関する事業
    - スポーツ講演会、体協ウォーキング、スポーツ少年団への支援、スポーツ指導者紹介システムの運用、静岡マラソンの開催支援等
  - イ 競技力向上に関する事業
    - スポーツ普及・選手強化等に対する事業への助成、ジュニア層育成に関する事業への助成、国際交流に関する事業への助成、スポーツ指導者資質向上講習会の開催等
  - ウ 調査・広報に関する事業
    - 会報誌「躍動」の編集発行、ホームページの更新等
  - エ 表彰に関する事業
- ・補助金額（予定）：前年度と同額16,512千円を予算要求

**【委員からの意見】**

特になし

**②静岡市スポーツ推進委員連絡協議会補助金**

- ・スポーツ推進委員とは？
  - 法的位置付け：スポーツ基本法
  - 人数：209名（葵区108名、駿河区49名、清水区52名）
  - 役割：学区内、地区内での体育行事への企画・運営・協力、地域でのスポーツの実技指導、ニュースポーツの普及、地域内の各種団体の調整、地域でスポーツ事業を実施するにあたってのコーディネーター的な役割等
  - 報酬：月額5,500円、トレーニングウェアやポロシャツは現物支給
- ・スポーツ推進委員連絡協議会とは？
  - 組織：各区のスポーツ推進委員会を束ねる組織
  - 役割：役員会や研修会、全市的スポーツイベントの実施
- ・補助金額（予定）：前年度と同額722千円を予算要求

**【委員からの意見】**

特になし

**(2) 支えるスポーツ～部活動とその指導者～について**

**【事務局説明】**

- ・スポーツ推進を図るための3つのサイクル、「観る」「する」「支える」のうち、「支える」は内容が幅広いため、指導者にスポットを当て、近頃問題となっている部活動指導者について取り上げたい
- ・部活動が教員の多忙化の原因の一つとなっている
- ・部活動は学習指導要領上、やることが想定されている

- ・教員が①経験の無い種目の顧問にならざるを得ない現況があり、②大会の運営、引率の負担が大きい

#### 【ワークショップの実施（４５分間）】

- ・３グループに分かれ、意見交換を実施
- ・テーマ：部活動及び指導者の在り方、受け皿としての社会体育の在り方、指導者不足への対応等

#### 【委員からの意見（各グループの代表から発表）】

##### <第１グループ>

- ・教員の多忙感の原因は、時間の長ささと専門外なので教えなくちゃいけないという点。
- ・ただ、忙しいという割には申合せ事項を破り練習時間を長くしたりして、矛盾がある。
- ・部活動にもストロングポイントがある。４時から練習できて、同じ学校の仲間と活動で来て、担任が居て保健師の先生が居て、全てが揃っている。諸外国には無い環境。
- ・部活動とクラブ、その棲み分けが大事。
- ・部活動の目的は、健全育成と専門的技術の習得にある。
- ・教員が熱心に成り過ぎないように、また逆に、保護者が熱心に成り過ぎないように注意する必要がある。
- ・部活動が終わった後、生涯スポーツへの道が用意されていることが大事。
- ・教員にとっても楽しめる部活であるべき。
- ・南米やヨーロッパのサッカーチームのように、１週間のうち４日活動して３日休むというように、バランスよくできると良い。
- ・総合型地域スポーツクラブ、市民型と企業型、垣根を取って考えられると良い。
- ・財政的な支援についても、健全育成の名の元、官民連携してやっていく必要がある。
- ・指導者不足についてはシルバー層や卒業生が活用できると良い。地域とか学校のアイデンティティを共有できると良い。
- ・専門性を考慮した教員採用を行ってもらえると良い。
- ・子どもは学校を選べないので、昔は一つの学校にあらゆる種目を用意した。今はそれができないので、学校を選択できる道を用意できると良い。

##### <第２グループ>

- ・一番大事なことは、スポーツを生涯に渡って続ける人口を増やしていきたいということで、生涯スポーツに繋がる入口として部活動が担っている部分は大きい。
- ・部活動で一番大事なことは、全力で闘ったり準備したりしたけれども勝てなかった、適わなかったという体験を、子ども達や保護者に価値づけること。そのためには日頃、つぶさに子供たちを見ていないと、大事な一言が言えない。部活動の縮小というところが弱くなり、矛盾してくる。
- ・部活動はそういうところが大事だという共通認識を一般の人にも広めることが大事。
- ・２，３校をまとめ、Ａ校は野球、Ｂ校はサッカー、Ｃ校はバスケなど、各校の顧問が

- 2, 3人集まって部活を見れば、負担を軽減できる可能性もある。
- ・外部指導者は学校教育に寄り添った形でノウハウを下してくれる人でないと困る。学校はこういうことを期待している、こういうことをしてほしいということを伝える研修等が必要。
  - ・諸外国と違って、日本は小さい頃から同じ種目をずっと続けるパターンが多い。その分、親の期待も大きい。
  - ・トップになるのは素晴らしいことだけれども、そうでなくともその競技を好きでいてくれるということが大事ということを教えたい。
  - ・セカンドキャリアが用意されていると、競技も一生懸命できる。
  - ・新潟の総合型など、先駆的な取り組みをしているところも多いので参考にしてほしい。
  - ・理念をしっかりと一度整理して、ガイドラインを策定する。それを広く知らしめることが大事。
  - ・板挟みになっている現場の指導者に対して、時間を制限したり、仲間でやって負担を減らす等の対応を取る。それでも負担がある場合は、外部指導者をうまく育てて活用するなどの対応が必要。
  - ・学校側と外部指導者の意識が一緒でないと、実際使うときに二度手間になる。そのギャップを埋められるシステムを作る必要がある。

#### <第3グループ>

- ・教員の考え方と外部指導者の考え方をすり合せていくにあたり、ガイドラインが良いモニタリングになる。
- ・教員や熱心な保護者しか見ないようなものではなく、自治体がうまく発信していくことが大事。
- ・学校という空間でスポーツ活動をするので、考え方を合せるということになると、旧清水市でやっていた養成機関みたいな取り組みが必要になってくる。
- ・部活動は教育活動に入っていないようで入っているのに、大学にはいわゆる部活動指導論というものが分野として無い。自治体がそういうところを大学に促していくと面白くなるかな、と思う。
- ・部活と言っても色々なタイプがある。学生は居るけど、指導者は居ない。指導者は居るのに学生が居ない。そもそも学生が居なくて種目が立ち行かない。等、タイプによって解決法を考えるのも良い。

#### 【会長まとめ】

- ・多様な意見があるようできて、収斂しているところは収斂している。
- ・日本の部活動にストロングポイントがあるというのは目から鱗。
- ・色々な意見が出たので、建議書にも反映していきたい。

### 3 伝達事項

- ・次回は1月か2月に、建議書の構成についての審議をしたい。